

咲つく南花台プロジェクトの 新たな展開について

平成30年度「丘の生活拠点」(南花台)創生事業 中間報告会

河内長野市 総合政策部 政策企画課



「咲つく南花台プロジェクト」の経過

■平成26年10月

「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業立ち上げ

- ・毎月1回の総合研究会と地域ワークショップを実施し、地域の声を収集しながら、まちづくりを研究
- ・「健康寿命の延伸」と「元気な住民の活躍の場づくり」を柱に事業展開

■平成27年10月

「コノミヤテラス」オープン

- ・コノミヤ南花台店空き店舗を無償で貸与いただき整備
- ・地域のまちづくり拠点の有り方を使いながら考える
- ・コノミヤテラスを中心にまちの課題解決につながる仕組みを構築

■平成28年 4月

第5次総合計画に南花台を「丘の生活拠点」と位置付け

- ・河内長野市南部の開発団地の生活を補完できる拠点化を目指す
- ・周辺地域への広がり期待

■平成29年 4月

南花台西小跡地を活用した錦秀会看護専門学校設置

- ・地域との交流を通じ、特色ある教育を目指す
- ・人工芝サッカー場を整備、地域開放





「咲っく南花台プロジェクト」の経過

■平成29年 4月

『咲っく南花台事業者の会』発足

- ・南花台エリアを中心とした50以上の事業者(店舗・学校法人など)が加入
- ・地域HP「咲っく南花台.com」を活用した情報発信や、プレミアムフライデーの開催など南花台全体を盛り上げ

■平成29年12月

UR都市機構において

『南花台団地集約型団地再生事業』着手

- ・南花台UR団地の総住戸数1214戸のうち310戸を集約
- ・平成32年度以降の新機能設置を目指す

■平成30年 2月

『南花台地区「丘の生活拠点」に関するまちづくり連携協定』締結

- ・南花台団地集約型団地再生事業を契機として、
関西大学・UR都市機構・市が相互に連携・協力
- ・スマートエイジング・シティの形成に向けた取組みを推進

■平成30年12月

『南花台地区「丘の生活拠点」形成に向けたまちづくり連携協定』締結



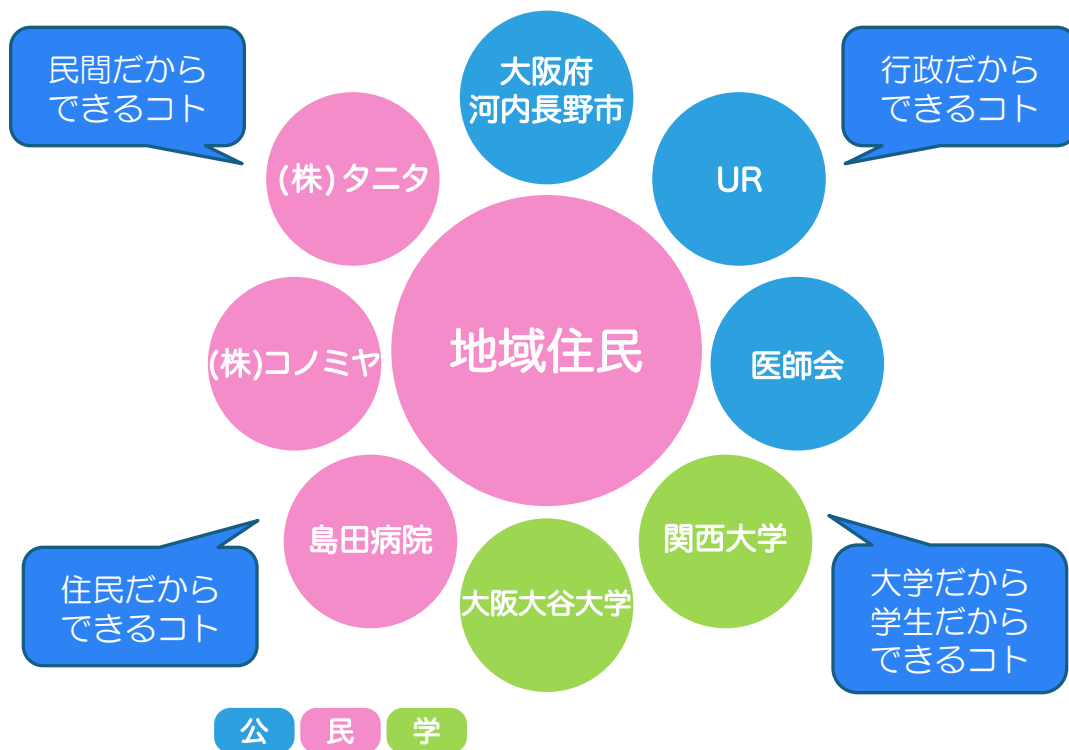


「咲つく南花台プロジェクト」の経過

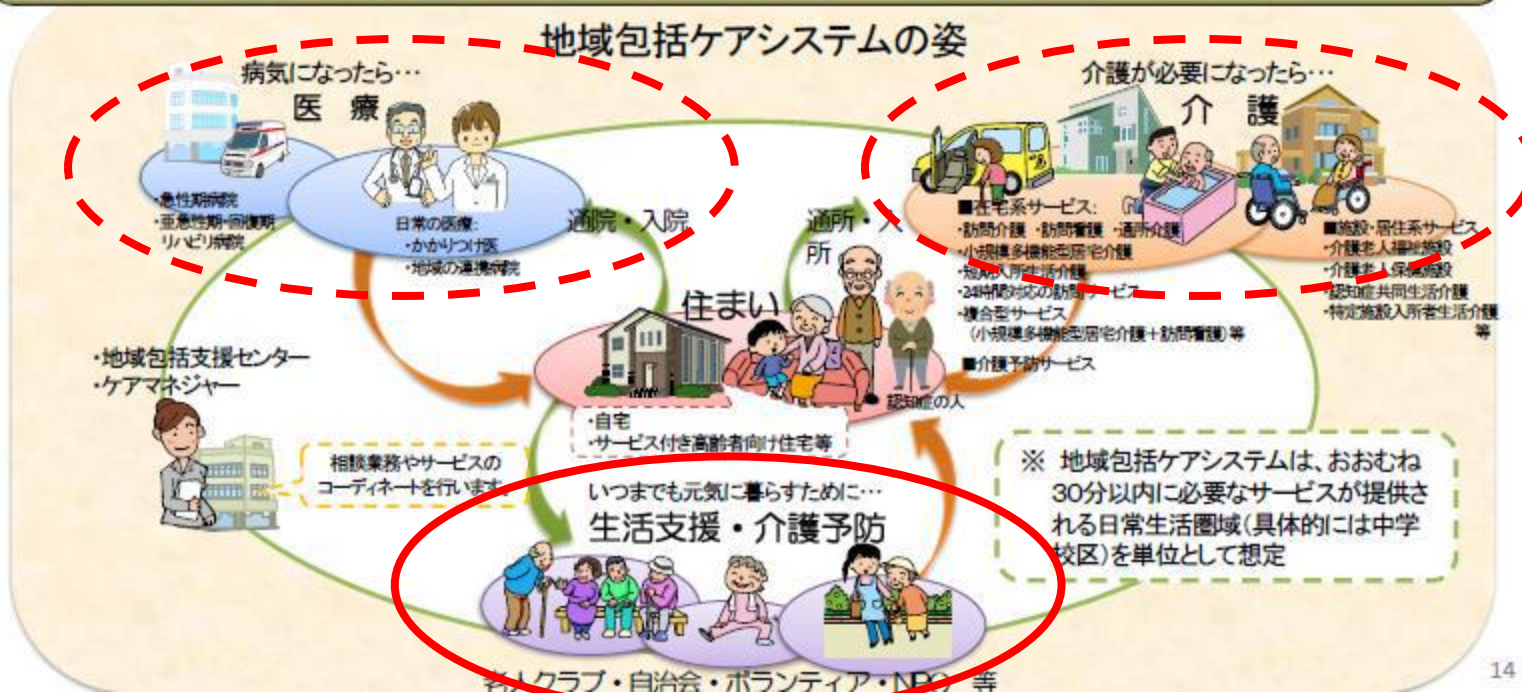
多世代が生きがいを持ちながら快適に住み続けられるまち(スマートエイジング・シティ)を目指し、大阪府や関西大学、(株)コノミヤ、UR都市機構、住民など公民学の連携により、多様な取組みを実施

《主な取組み》

- ①みんなの拠点づくり
- ②生活応援
- ③健康仲間づくり
- ④子育て子育て環境づくり
- ⑤まちの情報発信
- ⑥事業者連携
- ⑦ストック活用



- 住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現により、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようになります。
- 認知症は、超高齢社会の大きな不安要因。今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差を生じています。**
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や、都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。**





「咲つく南花台プロジェクト」の成果

〇〇ワークショップ

ファミリーサポート

まちづく
り機運
醸成

UR団地再編

まちの保健室

すまいるルーム

ニコニコサロン

カヌーづくりP

コノミヤ
テラス
整備

多世代
コミュニ
ティ創出

商店会復活

まちづく
り可能性
増大

咲つく南花台健康クラブ

助け合い
の仕組
構築

買い物応援

看護学校誘致

地域住民
合意形成

咲つく南花台.COM

南花台未来予想図
づくりプロジェクト

新たな
展開



新たな展開① 地域NPO立上げ

新たな展開② 自動運転実装事業

新たな展開③ 南花台UR団地集約事業

【買物応援プロジェクト】
平成28年12月スタート
→1回300円で自宅までお届け
支援実績:87件(H30.12月現在)



【生活応援プロジェクト】
平成30年6月から取組拡大
→1時間800円で
屋外での作業を支援
(庭の草引き、掃除、ゴミ捨て等)
支援実績:28件(H30.12月現在)



地域NPO立上げ
(平成31年度上期を予定)



買物応援



生活応援 (庭の草引き)



■ 継続的なまちづくりの仕組み構築

地域内の効率的な
公共施設管理



収益確保

【地域の仕事を
地域が受注】

- 公園管理
- 施設管理

まちづくりの担い手

地域NPO運営



地域魅力向上

地域課題解決

【課題解決につながる
多様な取組みを継続】

- コミヤテラス運営
- 生活支援
- 健康づくり支援
- 子育て支援
- 多世代交流活動



**地域で稼ぐ力をつけて、
自ら課題解決を図っていく**

子育て環境
充実

健康寿命
延伸

生きがい
づくり

多世代
交流促進

地域経済
活性化



**持続可能な
まちづくりの実現**



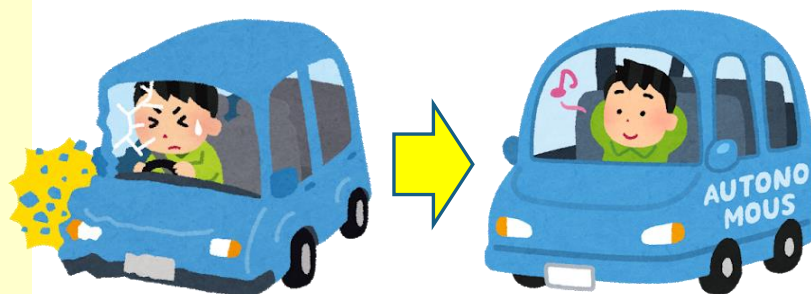
・地域の魅力向上
・定住人口の維持
etc.

Q. なぜ今、国を挙げて自動運転に取り組むのか？

①交通事故の削減

(安全性向上)

- 交通事故発生原因の9割以上がドライバーによるヒューマンエラー
(特に死亡事故発生件数の約97%が運転ミスに起因)
- 自動化により、人的要因による事故が大きく減少



②ドライバー不足の解消

(物流効率化、環境負荷低減)

- バスやタクシー、運送用トラックのドライバーが不足
- 現状のサービスを維持するには自動化が必要



③自動運転に伴う新しい付加価値

(移動サービスの高度化)

- 運転が不要になり、移動時間を利用して仕事など他のことができる(生産性向上)
- 無人タクシーをスマホで呼び出して手軽に移動するなどのサービスも想定



他にも・・・

【自動運転レベルの定義】

レベル1 (運転支援)	・システムが前後・左右のいずれかの運転操作を支援
レベル2 (部分運転自動化)	・システムが前後・左右の両方の運転操作を支援
レベル3 (条件付運転自動化)	・システムが全ての運転制御を実施(限定領域内) ・作動継続が困難な場合、運転者はシステムの介入要求に対して適切に応答することが期待される
レベル4 (高度運転自動化)	・システムが全ての運転制御を実施(限定領域内) ・作動継続が困難な場合、運転者が応答することは期待されない
レベル5 (完全運転自動化)	・領域の限定なく、システムが全ての運転制御を実施

実用化済

・自動ブレーキ
・LKAS、ACC

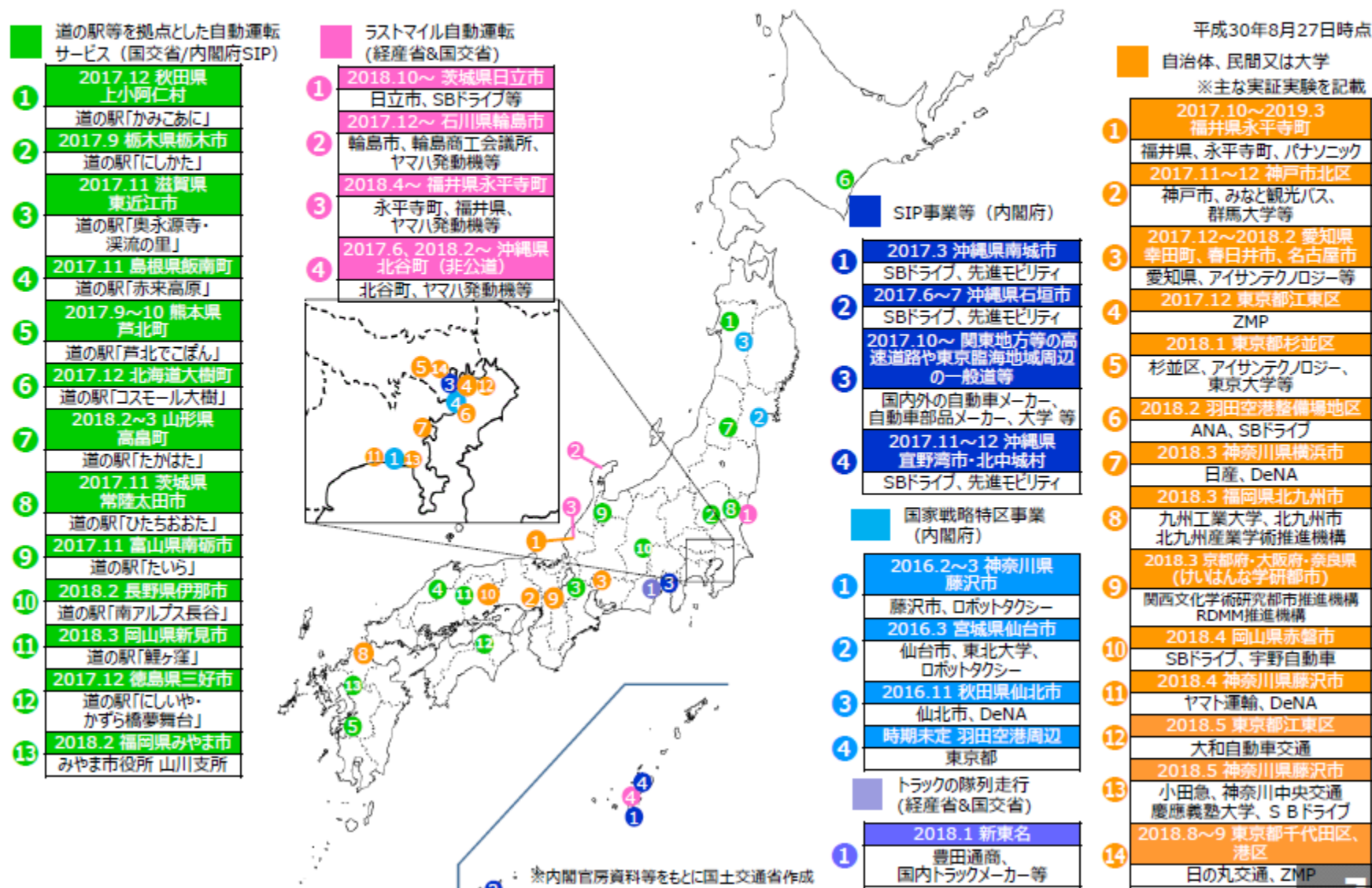
・ウinkerで追越
・LKAS+ACC

公道
実証実験

構想段階

自動運転システムが全ての運転制御を実施

日本における主な自動運転実証実験（予定含む）



『大阪府・河内長野市 近未来技術地域実装事業』の目的

⇒南花台地域で自動運転の実用化を実現し、健康寿命の延伸と地域経済の活性化、地域の魅力向上を図りながら、汎用性のある実装モデルを構築

【コンセプト】

⇒地域住民の生活の質(QOL)を自動運転の実用化により高め、魅力あるまちを創造



新たな移動サービスの実現

健康寿命の延伸

地域経済の活性化

地域の魅力向上

【今後の予定】

2018年度

- ・基本計画の策定
- ・地域ニーズの把握
- ・自動走行方法等の検討

2019年度

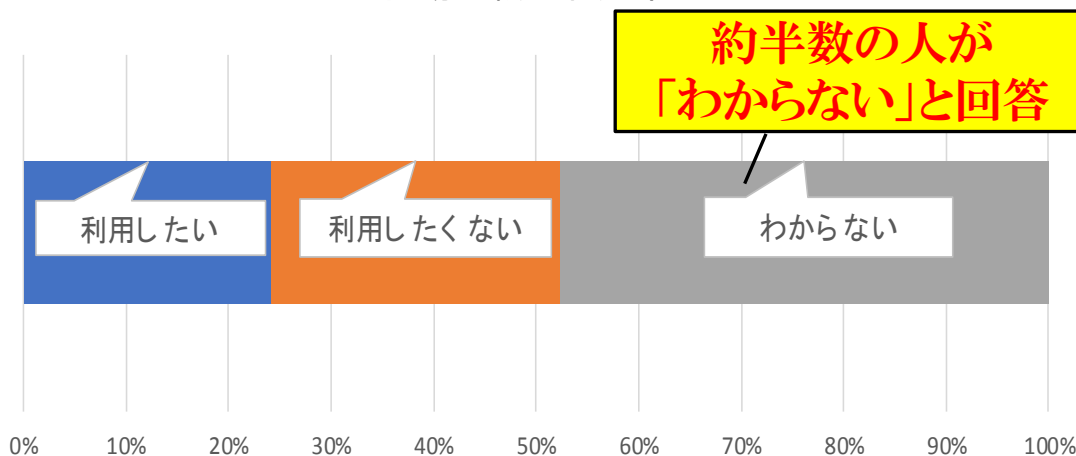
- ・自動走行の実証実験
- ・実証結果の検証
- ・社会実装に向けた検討

2020年度～

- ・社会実装

H30. 10月実施「南花台総合幸福度(略称GN*H)調査」
関西大学 社会学部・与謝野研究室

自動運転の利用希望



＜検討事項＞

車両

- ・風景が見える
- ・コミュニティが広がる、楽しい

走行ルート

- ・商業店舗、景勝地等を回遊

速度

- ・十分安全確保
- ・まちの風景を楽しめ、恐怖感なし

運営主体

- ・地域住民、事業者による運営を検討

コスト

- ・継続性、汎用性を考慮
- ・安全性は確保

継続管理区域

(将来事業区域を予定) (90戸)

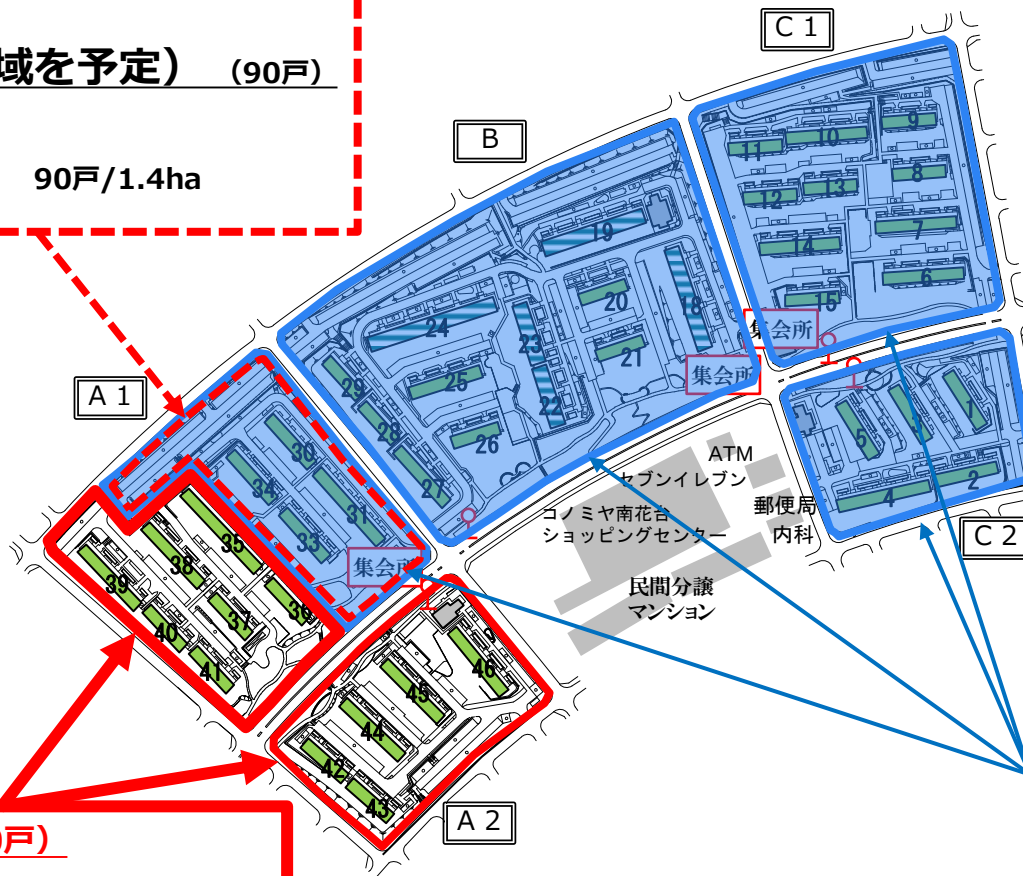
中層4棟

A1ブロック (一部) 90戸/1.4ha
〔3LDK : 90戸〕

事業区域 (310戸)

中層12棟

A1ブロック (一部) 180戸/1.3ha
A2ブロック 130戸/1.4ha
計 310戸/2.7ha
〔2LDK : 21戸、3DK : 289戸〕



平成29～30年度

- ・集約対象団地の居住者移転
- ・集約跡地の利活用方針検討
- ・事業者誘致に向けた調整

平成31年度

- ・集約建築物撤去
- ・事業者公募に向けた調整
- ・都市計画変更

平成32年度～

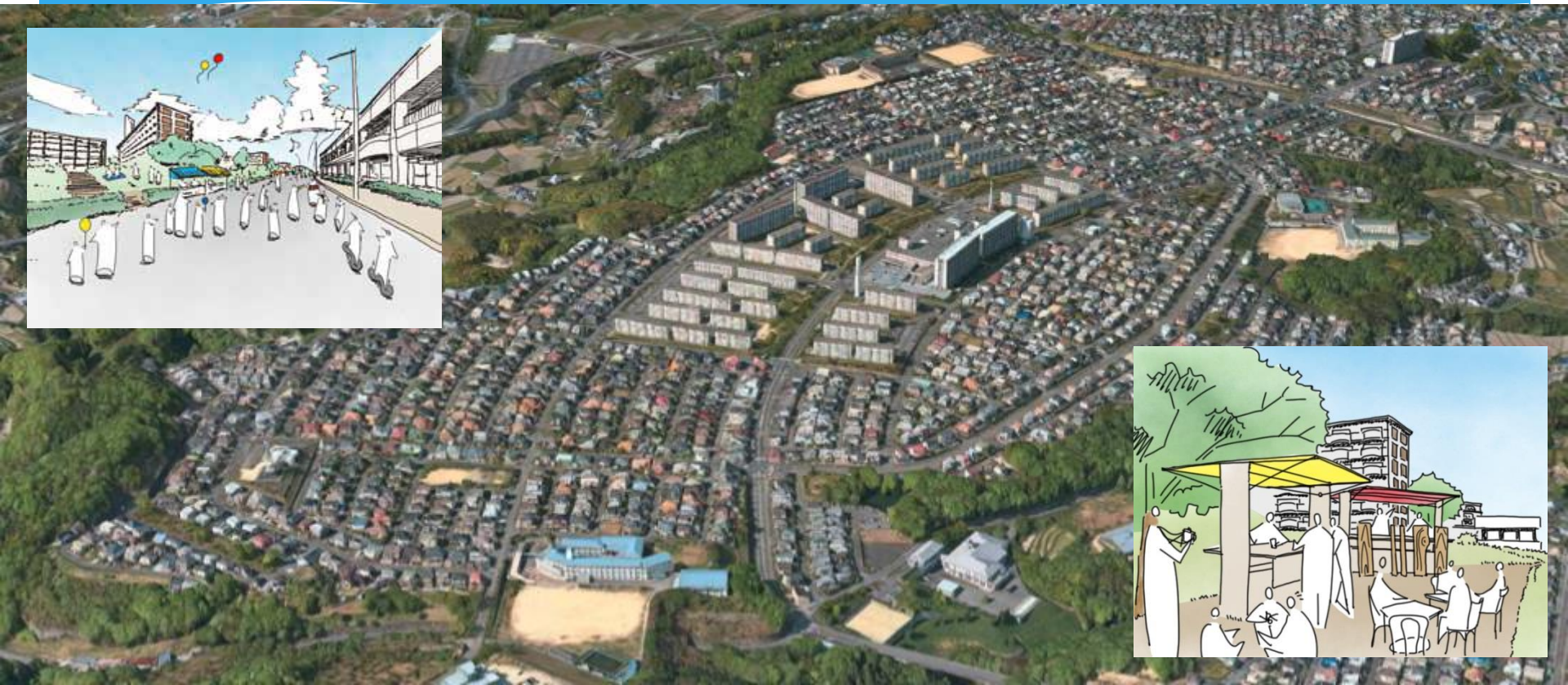
- ・新機能設置

継続管理区域 (904戸)

高層5棟、中層26棟

〔 2DK : 64戸
2LDK : 65戸
3DK : 429戸
3K : 146戸
3LDK : 200戸 〕

- 高層住棟 (8F)
- 中層住棟 (5F)
- バス停



- まち開きから約35年⇒住民ニーズやまちに求められる機能の変化
団地再編のタイミング
- 今後30～40年後の再編も見据え、まちづくりを考える



【跡地活用の考え方】

- 区画の分割、ハード整備を最小限にとどめる
- 「丘の生活拠点」としての機能を付加

公園集約イメージ（案）

＜検討用資料＞



A1後
(1.4ha)

(1.4ha)

(1.3ha)

A1先
(1.3ha)

A2
(1.4ha)

(0.8ha)

(0.3ha)

(0.3ha)

咲つく南花台プロジェクトの 新たな展開について

平成30年度 「丘の生活拠点」(南花台)創生事業
中間報告会

終わり